

2026 年 7 月 24 日

三菱食品株式会社

秋田県立大学と三菱食品、秋田の食産業の未来を考える連続講座を開講

—学生・市民・実務者が地域の食産業とくらしのこれからを議論—

秋田県立大学 生物資源科学部（学部長：長濱 健一郎）と三菱食品株式会社（東北支社長：浅沼 和彦、経営企画本部 戦略研究所長：本田 裕之）は、2026 年 10 月から 12 月にかけて、連続講座「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」（全 4 回）を共同で開講します。

本講座では、人口減少や担い手不足、物流環境の変化といった地域の食産業を取り巻く課題を背景に、学生、市民、ならびに食の生産・加工・流通・小売など食に関わる実務者が一堂に会し、秋田の食と地域社会のこれからを共に考えます。秋田県立大学と三菱食品は、本講座を通じて多様なステークホルダーによる対話と共創を促進し、地域創生に資する取り組みを進めてまいります。

秋田県は、米や発酵食品をはじめとする豊かな食資源と独自の食文化を有しています。一方で、人口減少や担い手不足、物流環境の変化などを背景に、これらの強みをいかに持続・発展させていくかが、地域の食産業にとって重要な課題となっています。

本講座では、「食産業」「流通」「生活者」「地域創生」をキーワードに、秋田の食を取り巻く現状と課題をデータや実例から学びます。あわせて、学生・市民・実務者が立場を越えて対話し、秋田の食産業の未来と持続可能な地域社会のあり方を考える機会を提供します。

三菱食品は、従来より地域ごとの特性や課題に応じた地域創生活動を推進しており、本講座もその一環として実施するものです。食品流通に関わる多様なステークホルダーが集う、秋田県における新たな共創の取り組みとなります。

■講座概要

名称：「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」

形式：全 4 回の連続講座（講義およびワークショップ）

開催時期：2026 年 10 月～12 月

会場：秋田県立大学 秋田キャンパス（オンライン参加可）

対象：学生、市民、食の生産・加工・流通・小売など食に関わる実務者

主催：秋田県立大学 生物資源科学部

共催：三菱食品株式会社

■ 各回講演テーマ（予定）

内容・講師は変更となる場合があります。

回	日程	テーマ（仮）	講師
第1回	第1回 10/7(水)	食品産業を知る	
		・ 本研究会の趣旨	長濱 健一郎 様 (秋田県立大学 生物資源科学部 学部長)
		・ 秋田の食と産業の特徴と課題 -統計データから	相庭 利成 様 (詩の国秋田株式会社 代表取締役 社長)
		・ 東北エリアと食品業界	浅沼 和彦 (三菱食品株式会社 東北支社 支社長)
第2回	第2回 10/28(水)	商品を創る、伝える(商品企画)	
		・ 食品製造(調達・管理)から 食文化の発信まで	大友 理宣 様 (秋田銘醸株式会社 取締役 常務執行役員 製造部 部長)
		・ 五城目町かむかむ開発事例	千葉 祥一 (三菱食品株式会社 東北支社 戦略オフィス)
第3回	第3回 11/11(水)	地域を支える食品流通(小売・物流)	
		・ 食の売り場から地域を支える	高柳 智史 様 (株式会社タカヤナギ 代表取締役 社長)
		・ 地域における食品物流	小谷 光司 (株式会社ベスト・ロジスティクス・パートナーズ※ 代表取締役社長執行役員)
第4回	第4回 12/9(水)	食べる人起点でビジネスを考える(市場創出)	
		・ 起業家からみた市場と秋田の可能性	タベルスキ・マイケル 様 (株式会社IMI 代表取締役)
		・ 生活者理解の基本、消費者分析	本田 裕之 (三菱食品株式会社 経営企画本部 戦略研究所 所長)

※株式会社ベスト・ロジスティクス・パートナーズは三菱食品株式会社 100%出資の物流事業会社

■ 参加方法

参加方法・申込方法の詳細は、秋田県立大学公式サイトにてご案内します。

<https://www.akita-pu.ac.jp>

秋田県における「食品産業 産学官連携活動」参画の概要

－「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」－

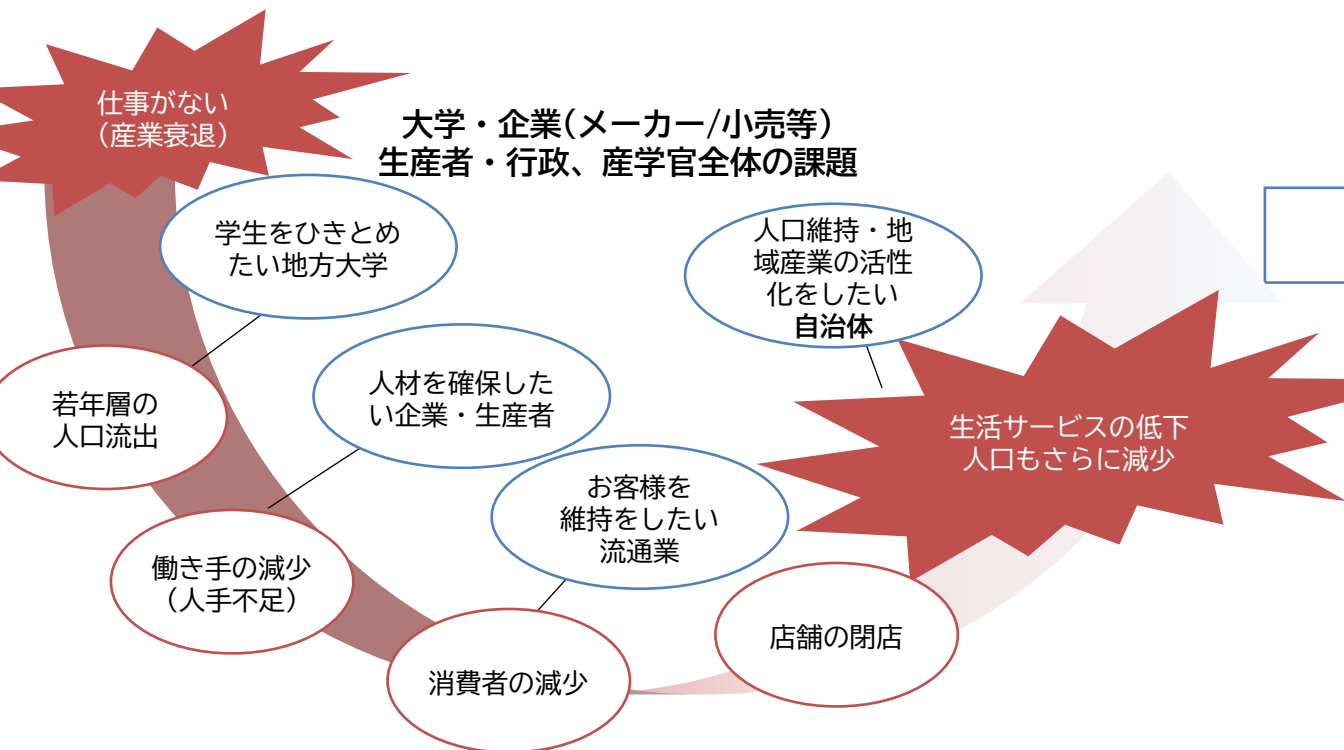
2026年7月24日

秋田県立大学 生物資源科学部

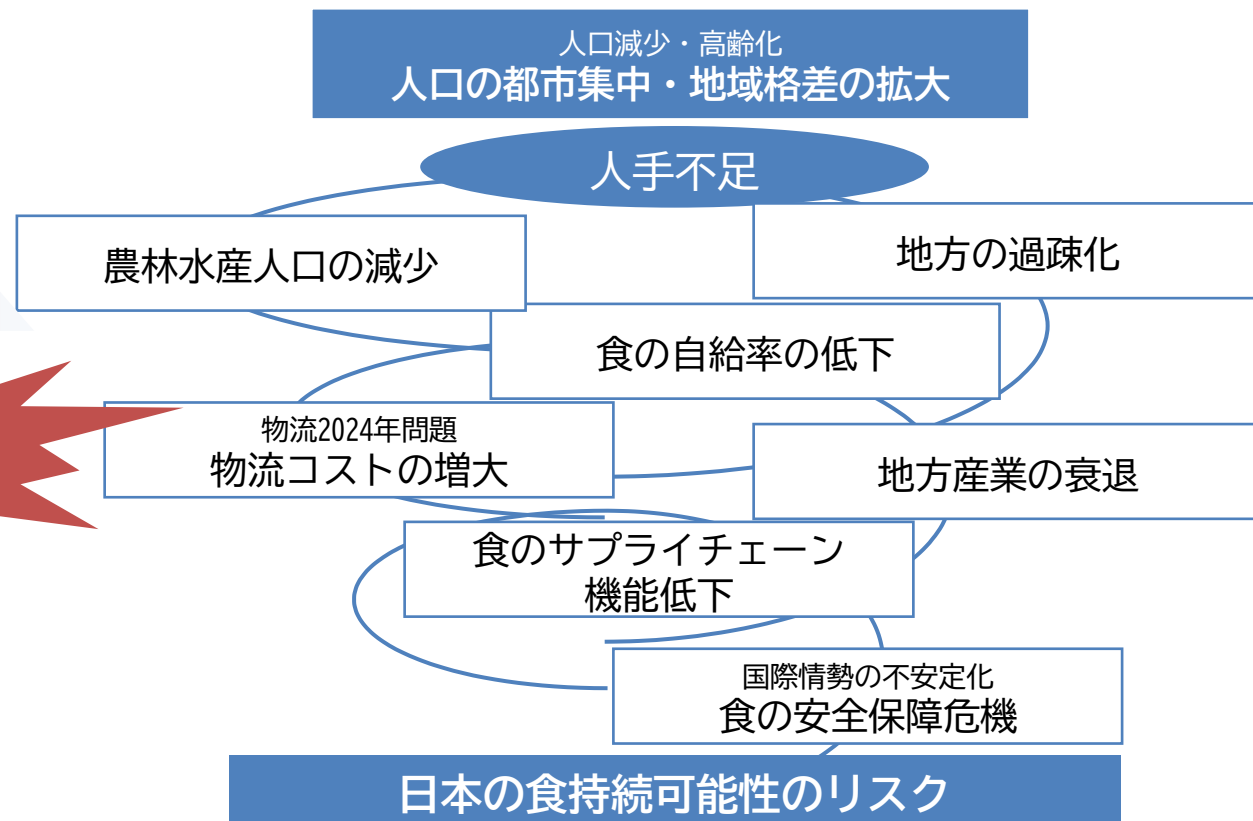
三菱食品（株）東北支社 / 経営企画本部 戦略研究所

- 秋田県をはじめとする地方では、仕事の不足を起点として若年人口の流出が進み、人手不足、産業の衰退、生活サービスの低下を招き、さらなる人口減少につながる負の循環が生じています。こうした状況については、地域の大学、企業、生産者、行政など、産学官に関わる多くの関係者が共通の課題意識を有しているものと考えます。
- 秋田県立大学は、地域に根差した研究・教育を展開し、スマート農業の推進や地域課題の解決に貢献する実践的な専門人材の育成に取り組んできました。今後の県内産業の発展に向けては、農業に加え、加工、物流、販売を含む流通全体を横断的に捉える視点を持つ人材育成が重要であると考え、学生のみならず、ビジネスパーソンへのリスキリングにも、今後、取り組んでいきたいと考えています。
- また、全国で事業を展開する三菱食品にとっても、地方で加速する人口減少や産地、地域産業の衰退は、日本の食の持続可能性に関わる重要な課題という危機意識を持っています。

地方が抱える構造的課題



地方課題は実は日本の食の課題



- 秋田県は国内有数の農林水産物生産地である一方、食品産業としての付加価値は必ずしも十分とは言えません。その要因は、首都圏をはじめとする大都市部との距離や就業人口の減少といった構造的課題に加え、加工、物流、販売といった流通・マーケティングが十分に発揮されていないという課題もあります。
- 本プロジェクトでは、こうした状況を踏まえ、秋田県をフィールドに、学生・市民も含めた多様な参加者により、食品産業を通じた地域課題への対応を考えます。
- そのため、業種・立場・地域を問わず、本趣旨に共感いただけるステークホルダーの皆様に、本活動への参画をお願いしたいと考えています。
- 初年度である2026年度は全4回の公開講座として開催いたします。

「秋田の食産業の未来から豊かな『地方』を考える」と題した寄付講座を開設

産学官・学生・市民が集まり、みんなで知恵を出し合って
食産業を通じて地域課題への対応を考える

